

市史資料室だより

平成21年6月発行

第1号

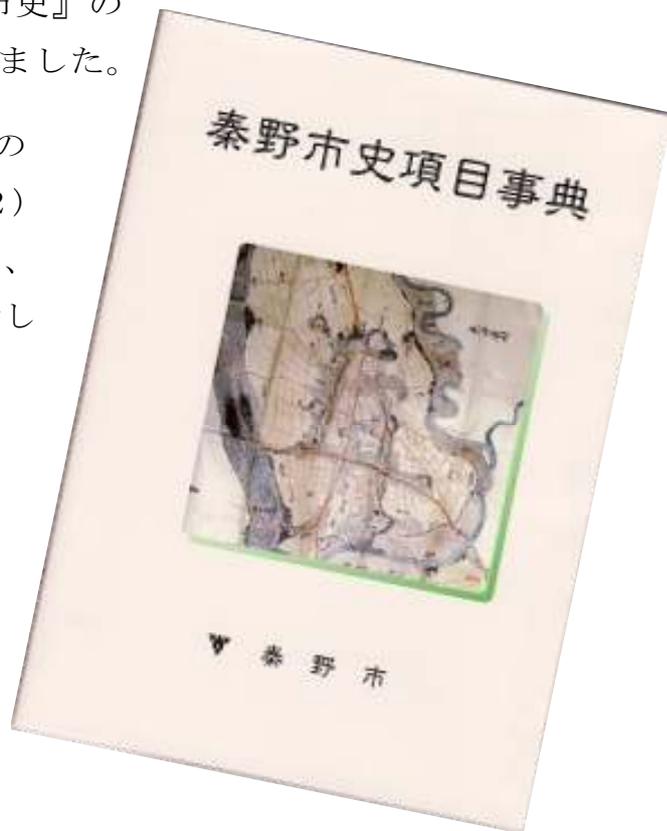
発行 秦野市教育委員会 生涯学習課文化財班(市史資料室)
TEL 0463-83-8380 FAX 0463-83-8381
E-mail sisi@city.hadano.kanagawa.jp

〒257-0042
秦野市寿町3番12号
(はだのこども館内)

好評発売中!! 『秦野市史項目事典』

『秦野市史』のダイジェスト版で、『秦野市史』の手引書となる『秦野市史項目事典』を発行しました。

『秦野市史項目事典』は、『秦野市史』の通史編(古代・中世、近世、近代、現代、現代2)と別編(たばこ、民俗、考古)から項目を抽出し、簡単な解説と写真で秦野の歴史を分かり易く紹介しています。



A5サイズ 211頁 価格 1,000円



販売場所

- 市史資料室
秦野市寿町3番12号(はだのこども館内)



- 桜土手古墳展示館
秦野市堀山下380番地の3



ミニ歴史資料展

絵図から見る

江戸時代の千村!!

江戸時代の「千村の絵図」から
当時の村の様子を想像してみ
ませんか !!

展示期間

平成21年6月1日(月)
～ 30日(火)

会 場

- ・ 市史資料室(はだのこども館内)
- ・ 渋 沢 公 民 館



この絵図は、本町の関口克巳さん宅で大切に保管されていたものですが、このたび、秦野市に寄贈していただきましたので、皆様に御紹介させていただくことにいたしました。

この絵図の中には、

辻彦三郎知行所	相模国大住郡千村	東西七町三拾間		
鶺殿藤助知行所	同	南北七町五間		
菖蒲村境	四拾八瀬川流境	堀村境	澁澤村境	澁澤村峠境
篠久保村境	神山村境	瀧坂	松田村境	

などの表記が有ります。

絵図の中央部には「白山神社」と「泉蔵寺」と思われる建物が描かれており、篠久保村境に描かれている丸い形の山は「頭高山」と思われます。 神山村境には、「神山滝」と思われる描写もあります。

この絵図の右下には、この地を治めていた知行「辻彦三郎」「鶺殿藤助」の名と「相模国大住郡千村」と記されています。

千村は当初幕府直轄領と旗本鶺殿領の二給でしたが、慶長6～7年(1601～02)に旗本鶺殿領・辻領の二給となり、明治維新まで続きました。

江戸時代には、代々同じ名を名乗ることが多かったため、残念ながらこの絵図の製作年代が江戸時代前期から明治維新頃までの期間の、どの時代のものかは分かりません。

「新編相模国風土記稿」(1841年)の時点では「今地頭辻久五郎 鶺殿藤助」と記載されています。

この絵図から当時の集落や家々の所在、道路や寺社など、村の様子がうかがえます。昔の様子を現在の地図と比較してみるのも、おもしろいと思います。

なお、市史資料室では、秦野に関する古文書をはじめ、まちの様子が写った古い写真などの資料を集めています。 お手元に眠っている資料等の情報がございましたら、市史資料室まで御連絡ください。 ☎ 0463-83-8380

軽便鉄道歴史の旅

秦野～二宮間を走っていた軽便鉄道（SL） 歴史の旅へGO!!

軽便鉄道は、明治39年(1906)湘南馬車鉄道株式会社が秦野駅（現在の本町三丁目）から、吾妻村（現在の二宮町二宮）間の道路9.6kmに、幅2尺5寸（76.2cm）の軌道を敷設した馬車鉄道の運行が始まりました。

この鉄道は、明治35年(1902)東海道線二宮駅の開設に伴い、吾妻村の有志が秦野町や南秦野村、井ノ口村の有力者と協力してできました。

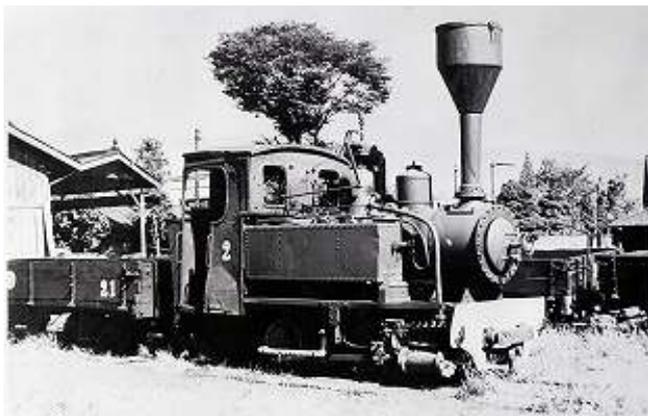
馬車鉄道は1頭の馬が小さな貨車を引くもので、明治43年(1910)6月の時刻表から、秦野～二宮間を片道65分～75分か、1日11往復し、乗車賃は片道16銭、往復30銭だったことがわかります。



専売局秦野製造所第5回職工慰安奨励会（常盤橋下）

大正2年(1913)には、動力が馬から無煙炭燃料自動車（蒸気機関）に代わり、社名も湘南軽便鉄道株式会社となりましたが、大正7年(1918)に湘南軌道株式会社へ軌道特許権が譲渡されています。

当時の沿線は、わら葺屋根の民家がほとんどで、火の粉の飛散を防ぐため、独自に開発したラッキョウ型煙突を付けた機関車が、客車や貨車を牽引していました。



秦野駅構内の機関車（2号車）

客車には秦野地方専売局の職員や大山への参拝者が、貨車には葉たばこ、たばこ製品、木材、綿糸など、この地域の産品が多く積まれ、産業の発展に大きな役割を果たしました。

しかし、自動車の普及や小田急線の開通により、利用者が減少し、昭和12年(1937)に姿を消しました。



水無川桥梁（命徳寺付近）

平成17年度に「秦野駅」（ジャスコ入り口付近）「台町駅」（本町2-11-5 付近）「大竹駅」（嶽神社付近）の記念碑が設置された。写真は「大竹駅」の記念碑

50年前の秦野へタイムスリップ (学校編)

【 私たちの郷土より 】



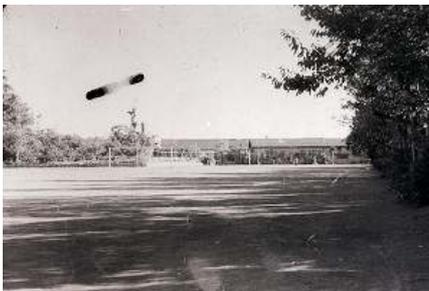
本町小学校



本町中学校



東小学校



東中学校



西小学校



西中学校



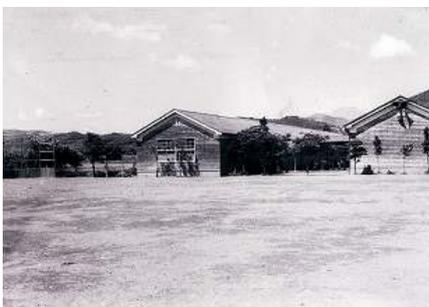
南小学校



南中学校



北小学校



北中学校



大根小学校



大根中学校



秦野高等学校

市史編さん室は平成20年2月に「はだのこども館内」に移転し「市史資料室」として生まれ変わり、市史資料を広く市民の方々に提供する施設として、充実を図ることになりました。

市史資料室には、皆さんのちょっとした疑問に答えてくれる、秦野の歴史や自然に関する本をはじめ、神奈川県史や県内・県外の自治体史などが数多く揃っています。

郷土史の研究や夏休みの自由研究など、利用の仕方は様々です。皆様の御利用をお待ちしておりますので、お気軽にお立ち寄りください。今回は、本町地区の関口克巳さんから寄贈していただいた「千村の絵図」や、市史資料室所蔵の資料の中から「軽便鉄道」「50年前の秦野」をテーマに、資料を紹介いたしました。